

ayubune

舟を作る

春、美術館の1階の窓を開放して、舟をつくった
亀岡、保津川でかつて鮎漁に使用されていた鮎舟
失われようとしていたその舟の存在と技術を、
アメリカ人の船大工が見つめなおした
彼のもとに集まった人たちとともに完成させた舟が、
静かに、美術館に停泊する



Illustrations by Izumi Shiohara

2014年6月28日(土) - 10月13日(月・祝)

開館時間：10:00 - 18:00

休館日：月曜日・火曜日（但し、祝日の場合は開館） ※お盆休み8月13日(水) - 15日(金)

入館料：一般400円 / 高大生200円 / 中学生以下無料

船大工：ダグラス・ブルックス

参加者：大槻太介、大槻陽介、奥村基、千藤祐介、豊田佳生、内藤正隆、南真祥

ドキュメント映像：松永大司（映画監督）

主催：みずのき美術館

助成：日本財団

協力：NPO 法人京都 ARU、保津川遊船企業組合、七谷川木材工業社

みずのき美術館





5月、みずのき美術館は和船を作るための工房となりました。

アメリカ人の船大工ダグラス・ブルックスと、彼のもとに集まった7名の青年たちが約3週間かけて復元させた「鮎舟」を、映画監督の松永大司によって撮影されたドキュメント映像とともに紹介します。

関連イベント

● トーク 6月28日(土) 14:00-16:00

ゲスト：ダグラス・ブルックス（船大工、研究家） 山内博（船大工、保津川遊船企業組合）

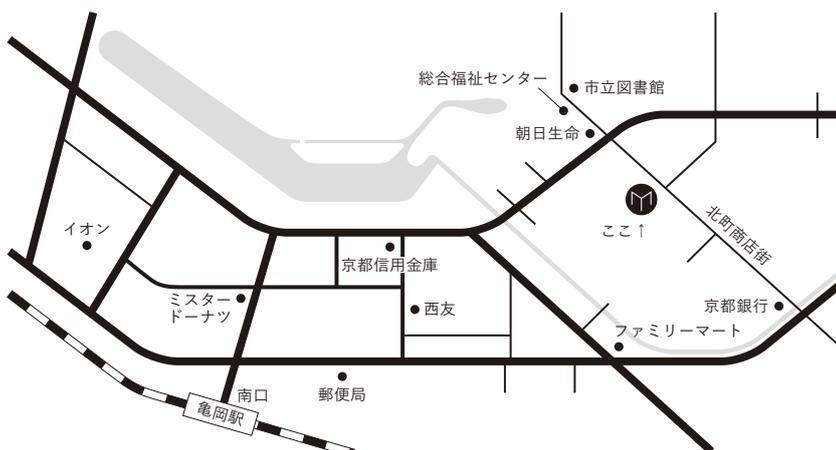
聞き手：奥山理子（みずのき美術館）

トークの後、レセプションパーティーを予定しています。

● 進水式 6月29日(日) 13:00- 雨天時は翌30日(月)に順延

会場：保津川大橋付近 ※29日は、美術館に舟を展示していません。

* 関連イベントの詳細は当館へお問合せいただくか、Facebookページにて発表いたしますので、そちらでご確認ください。



ダグラス・ブルックス Douglas Brooks

船大工、木造船専門の研究者、ジャーナリスト。1960年生まれ、コネチカット州ディープリバー出身。同州ハートフォードのトリニティ・カレッジ卒業。専攻は哲学。また同州のミスティック・シーポート博物館にて、ウィリアム・カレッジのアメリカ海洋学のコースを修了。博物館や個人の所蔵する伝統的、木造船の建造を専門とする。1985年から1990年まで、サンフランシスコの国立海洋博物館専属の船大工を務めた後、日本と全米各地の博物館のために木造船を制作している。1990年も初来日した際、たらい舟に興味を持ち、1996年藤井孝一氏に弟子入りした。この他、千葉県浦安市、東京都江東区、青森県東通村にて、船大工のもとで和船を建造。2002年から2003年にかけて一年間、日本で和船建造の研究をするための助成金をフリーマン財団より授与された。

松永大司 Daishi Matsunaga

映画監督。1974年生まれ。大学卒業後、矢口史靖、橋口亮輔監督らの作品に俳優として出演。2001年より監督活動を開始。友人の現代芸術家ビュ〜びるの8年間の軌跡を追ったドキュメンタリー『ビュ〜びる』（11/ロッテルダム国際映画祭ほか正式招待）で劇場映画監督デビューを果たす。その他、『かぞく』（12）、格闘技ドキュメンタリー『HYBRID』（13）など。心の機微を丁寧に描き出す演出で高評価を受けている期待の新鋭。

みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18

〔JR嵯峨野(山陰)線亀岡駅南口下車徒歩8分〕

TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889

www.mizunoki-museum.org

〔Facebook〕www.facebook.com/mizunokimuseum

※美術館に駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。